

# 情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」の 編集にあたって

兼宗 進<sup>1,a)</sup>

## 1. 第6巻第3号の刊行にあたって

情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」(IPSS Transaction on Computers and Education, TCE)は今回の第6巻第3号で通算18号目の刊行となります。こうして本号を刊行できましたのも、ご投稿いただいた皆様と、丁寧な査読者の皆様ほか、関係者の皆様方のお力によります。この場を借りてお礼申し上げます。

本論文誌は、コンピュータと教育研究会(Computers in Education, CE)と教育学習支援情報システム研究会(Collaboration and Learning Environment, CLE)を母体とし、研究会の名称のとおり「教育」と「コンピュータ」と、そしてこれらを支援する学習支援システムについて扱っています。また、多様な教育実践の知見が集まるように、「実践論文」や「ショートペーパー」といったカテゴリーを用意することで、より現場の知見を集めるように工夫している点に特徴があります。また、本論文誌では読者にとって有益な情報や価値ある知見を積極的に紹介するために、条件付き採録の照会回数に制限を設けず、可能な限り研究成果を拾い上げるという点にも特徴があります。この点については、著者と査読者の両者に対して長期間の負担がかかってしまう面もありますが、皆様の貴重な研究成果・実践結果を論文化して公開するために、ぜひ積極的なご投稿、ご査読へのご協力をお願い申し上げます。

今年度からは小学校のプログラミング教育が開始され、来年度からは中学校で、そして再来年度からは高等学校で新教育課程での情報教育とプログラミング教育が予定されています。また、大学では全国でオンライン授業とともにBYODに関する取り組みが進められています。本号では、特別支援教育と高等学校における初等中等教育でのプログラミング実践や、大学における研究倫理教育の実践例に関する論文を収録しています。最新の研究成果が多くの授業において活用できることが本論文誌の特徴です。今後も新しい情報教育の取り組みに関する研究が投稿されること

を期待しております。

## 2. 本号掲載論文の紹介

本号では、4編の記事を掲載しています。

- 「特別支援学校教員を対象としたプログラミング講座の教育的効果と特別支援学校で必要な配慮」は、2020年から小学校でプログラミング教育が必修化されることから、特別支援学校でのプログラミング教育の実践について、小学部、中学部、高等部の教員を対象にしたプログラミング講座を実施し、教員のプログラミングへの意識の変化を評価しています。
- 「ジグソー法を用いた研究倫理教育」は、効果的な研究倫理教育のためにジグソー法を用いた研究倫理教育を考案し、大学1年生を対象とした実践授業を行い、事前事後に行う受講生による自己評価に対する分析を通して、ジグソー法は受講生同士の相互作用を活性化し受講生が意見を形成するのに効果的であるといった教育効果を示しています。
- 「スマートスピーカーを題材にした高等学校におけるプログラミング学習環境の提案」は、スマートスピーカーのアプリをオンラインで開発できる学習環境を提案し、高等学校の普通科の授業で実践を行い、高校生がスマートスピーカーの仕組みやWeb APIの仕組みを理解できることを確認しています。
- 「Split-Paper Testing: A Novel Approach to Evaluate Programming Performance」は、コンピュータでの自動採点が可能な、新しいプログラミング能力の測定方法を提案しています。80人の大学生を対象にした、従来の記述式のテストとの比較実験の結果から、比較的精度が高い測定が可能なが示されています。

<sup>1</sup> 大阪電気通信大学  
Osaka Electro-Communication University, Neyagawa, Osaka  
572-8530, Japan

<sup>a)</sup> kanemune@gmail.com